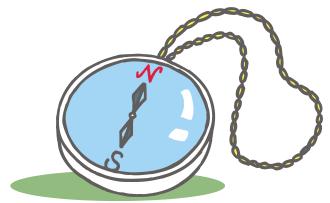


羅針盤

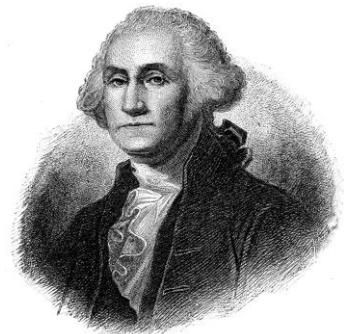


第33号

令和3年(2021年)1月25日(月)

◆ 「釘(くぎ)の穴」

昨年の11月3日、アメリカでは次期大統領を選ぶ選挙が行われました。結果は、皆さんも知っている通り民主党のジョー・バイデン氏が選挙人投票数を290として、当選に必要な投票数である270を確保して、共和党のドナルド・トランプ氏を破り、勝利を収めました。先月の12月14日には、選挙人投票が行われ、今月の1月7日に連邦議会が投票結果の集計を終え、先週の1月20日に新大統領の就任式が行われたばかりです。ところで、皆さんには、アメリカの初代大統領ジョージ・ワシントンという人を知っているでしょうか。幼少期の彼は、相当ないたずらっ子だったそうです。皆さんの中には、桜の木を切ってしまったという有名なお話を知っている人がいるかもしれません。ワシントンは、普通の子どもがやらないようないたずらが多くて、彼のお父さんは困り果てていたそうです。そこで、ある日、お父さんはワシントンを台所にある柱のところに彼を呼び出して、次のような話をしました。「これから悪いことをしたら、この柱に太い釘を打ち込むことにする。もし、良いことをしたら、釘を1本抜くことにしよう。」そう言いながらも、お父さんは、どうにかして釘が打ち込まれないようにと願っていました。しかし、ワシントンのいたずらは、簡単にはやみませんでした。それからもいろいろないたずらを繰り返していました。



やがて、ワシントンも自分自身の行動について振り返ができるようになり、良い行いをしたり、人を助けたり、優しい心で行動することができるようになってきました。お父さんは、そのたび毎に、釘を1本ずつ抜いてやりました。そして、釘がとうとうなくなった時、ワシントンを呼んで柱をなでさせました。「おまえは、このごろ本当に良い行いができる子になった。見てごらん、釘は1本もなくなったよ。」と。ワシントンはお父さんにはめられてニコニコしていました。お父さんも最初はニコニコしていましたが、「だけどね。」と言って、急にまじめな顔になりました。そして、こう言いました。「確かに、釘は1本もなくなった。だけど、この釘の穴は直すことができないんだよ。誰がどのように頑張ったところで、決してこの釘の穴を元通りにすることは誰にもできない。」と。ワシントンは、それを聞いて涙をボロボロと流しました。ワシントンのそれからの長い生涯には、心の底に、「抜けばいい」ではなく、「釘を打ち込んではならない」という考えがあったと言います。「アメリカ建国の父」と称えられるジョージ・ワシントンは、1789年に、アメリカ合衆国初代大統領となり、アメリカを独立へと導きました。『釘がなくなったとしても、一度傷つけたものは元には戻らない。だからこそ、決して傷つけてはいけない。』



という教えは、私たちにとっても、日常の生活を今一度振り返る教えではないかと思います。たくさん的人が共に生活をする学校、誰もが笑顔あふれる学校生活を、毎日過ごしたいと望んでいるはずです。助けあう気持ちや、励ましあう友人関係をつくりあげていくことが、素晴らしい学校を築きあげていく基盤です。ワシントンの成長に繋がった教えをもとに、生徒の皆さんも大きく成長してくれることを願っています。

